

# 叙勲受章おめでとうございます



吉岡 興さん  
(米代町・73歳)  
— 地方自治功労 —

## 旭日小綬章

昭和47年から連続11期38年間の長きにわたって鷹巣町及び北秋田市議会議員として在職し、将来展望に基づく町・市の発展、振興に尽力し、地方自治発展のため多大な貢献をされました。

昭和47年4月に旧鷹巣町議会議員に初当選し、以来連続9期務められ、この間、教育民生常任委員長、産業経済常任委員長、議会運営委員長、副議長などを歴任。平成17年3月から合併による在任特例で北秋田市議会議員となり、改選後の平成18年4月から22年3月までは議長に就任し、円滑で活力ある議会運営に努められました。

特に、鷹巣町議会副議長として、町村合併に向けて手腕を発揮し4町を合併へ導き、また、市議会議長として、市民の安定した生活と新市の構築に力を注がれました。  
受章について「こそばゆいというか恥ずかしい。私もちろっといいのか申し訳ない気持ちです」と謙遜しながら喜びを語りました。



泉 一雄さん  
(阿仁中村・73歳)  
— 地方自治功労 —

## 旭日双光章

昭和58年から連続8期26年間の長きにわたって阿仁町及び北秋田市議会議員として在職し、将来展望に基づく町・市の発展、振興に尽力し、地方自治発展のため多大な貢献をされました。

昭和58年11月に旧阿仁町議会議員に初当選し、以来連続6期町議会議員を務められ、この間、産業建設常任委員長、教育民生常任副委員長、鷹巣阿仁広域市町村圏組合議会議員などを歴任。また、平成17年3月から合併による在任特例で北秋田市議会議員となり改選後に再選を果たされました。

特に、阿仁町議会議員として、農業の基盤整備や森吉山阿仁スキー場の誘致、奥阿仁観光の振興に尽力。また、市議会議員として、住民との対話を重ねて地域課題を把握し、その声を議会に反映させながら新しいまちづくりに奔走しました。  
受章について「学歴もなく、議員時代業績を残したこともない私が叙勲を受けるのは大変驚いている」と喜びを表していました。



長岐 洋一さん  
(七日市・79歳)  
— 土地改良事業功労 —

## 旭日单光章

32年間にわたり土地改良区の役員として土地改良事業の推進に尽力し、地域農業の振興、発展のため多大な貢献をされました。

昭和41年に鷹巣町小猿部土地改良区の理事に就任し、副理事長、理事長を歴任。平成9年12月から合併で誕生した鷹巣町土地改良区副理事長、18年2月から北秋田市鷹巣土地改良区理事長を務められ、24年には秋田県土地改良事業団体連合会功績者表彰を受賞されています。

農業従事者の高齢化や組合員数の減少等、運営面に危機感を抱く鷹巣町内5土地改良区の合併に前理事長のもとで、農業情勢に対処できる組織運営基盤強化に尽力。また、ほ場整備等を積極的に推進し農業生産基盤整備に努められました。  
受章について「地域や関係機関の皆さまに支えてもらったからこそこの受章とします。現在協議中の市内土地改良区が合併し『新北秋田市土地改良区』が誕生することを願っている」と感謝の気持ちとこれからの思いを語りました。

政府は4月29日付けで平成25年春の叙勲受章者を発表しました。北秋田市からは、地方自治功労で元北秋田市議会議長の吉岡興さんが旭日小綬章、元市議会議員の泉一雄さんが旭日双光章を受章。土地改良事業功労で鷹巣土地改良区理事長の長岐洋一さんが旭日单光章を受章。消防功労で元鷹巣町消防団副団長の小松秀雄さんと元森吉町消防団分団長の吉田傳藏さんが、それぞれ瑞宝单光章を受章されました。  
また、第20回危険業務従事者叙勲受章者を4月13日付けで発表し、消防功労で元消防司令長の柳山敏幸さんが瑞宝单光章を受章されました。



小松 秀雄さん  
(綴子・74歳)  
— 消防功労 —

## 瑞宝单光章

昭和42年から35年間、消防団として消防業務に使命感を持って従事され、地域消防や防災活動の充実に貢献されました。  
昭和42年4月に旧鷹巣町消防団に入団。59年から班長、平成3年から副分団長、9年から分団長、12年12月から14年11月まで副団長を歴任。13年には消防庁長官永年勤続功労章を受賞されています。

在職中は、豊かな消防知識と経験を生かして部下の育成と親和に努め、消防人としての使命達成のため、自ら率先して業務に徹し、任にあたりました。また、消防団幹部として火災予防の啓発、団員の教育訓練にも励まれました。  
昭和46年に綴子地内で発生した火災では、いち早く現場に駆け付け、他分団の団員と連携協力して消火活動にあたり、川からの中継放水により延焼を食い止めました。

受章について「まさかもらえるとは思っていませんでした。私みたいなものに叙勲とは、本当にうれしいです」と心境を語りました。



吉田 傳藏さん  
(米内沢・75歳)  
— 消防功労 —

## 瑞宝单光章

昭和31年から36年間、消防団として消防業務に使命感を持って従事され、地域消防や防災活動の充実に貢献されました。  
昭和31年8月に旧森吉町消防団に入団。昭和53年班長、57年部長、昭和61年副分団長、63年1月から平成4年12月まで分団長を歴任。平成4年には消防庁長官永年勤続功労章を受賞されています。

在職中は消防団活動の重要性を深く認識し、地域住民の生命と財産を守るため、防災知識の研さんや訓練等に努力され、特に、防火貯水槽、消火栓、自然水利の確保等の消防施設整備の拡充強化にも尽くされました。昭和47年7月の豪雨災害では、被害状況をいち早く察知し、地域住民と連携を図りながら復旧活動に努めました。

受章について「考えたことがなかったのですが、まさか自分に来るとは夢にも思わなかった。活動を見てくれた人がいて、それが受章につながった。大変なことたくさんあったが続けてきてよかった」と喜びを語りました。



柳山 敏幸さん  
(浦田・67歳)  
— 消防功労 —

## 瑞宝单光章

昭和48年から33年間、消防吏員として消防業務に使命感を持って従事され、指導者としても地域の消防力強化に貢献されました。

高校卒業後、地元の会社で自動車整備工として7年間勤めた後、昭和48年に鷹巣阿仁広域市町村圏組合の消防士に採用。阿仁分署長、消防本部警防課長、市消防本部消防次長・鷹巣消防署長を歴任し、平成18年の定年退職まで消防活動に従事されました。

在職中は、職場の仲間や消防団員との信頼関係を大切にし、長年の経験から得た消防に関する知識を発揮して、部下及び消防団員等の指導育成にも尽力されました。忘れられない出来事として「真夜中の火災に出動した時、現場集落に到着すると女性たちが拍手で迎えてくれたことを思い出す」と当時を振り返りました。  
受章について「本当に身に余る光栄で感謝している。こつこつ積み上げてきた結果であり、大変うれしく思う」と喜びを表しました。